

活動報告

花岡事件の慰霊式で感じたこと

6月30日、秋田県大館市で行われた中国人殉難者慰霊式に参列してきた。中国大使館や領事館の方、中国の若い方も参列されていた。

戦時下に日本へ強制連行され、命を落とされた方429名。なぜ命を落とす事になったのか？というお話や説明を聞いている時、何度も涙が溢れてきた。

戦後の長きに渡り、真摯にその真実と向き合い、心からの行動と思いが伝わったからこそ、今日の友好関係がある。直視出来ない位、辛くて悲しい過去。その真実に蓋をしておかなかった事に。都合が悪いからというだけでなく、辛すぎてそうしないと耐えられない人もいたであろう。

でもその真実は何度も蓋を開けて、私達を深い悲しみや後悔へと誘い、傷つけた他者だけでなく、それが自分自身をも深く傷つける。「過去は変えられないが未来は変えられる。他者は変えられないが自分は変えられる」というが、改めて、これから自分がすべき事は何か？を自分に問う日となった。

私はヨガに携わる者なので、ヨガの教えである『自分も他者も傷つけない』を実行し、今回の経験を伝えていく。

平和はそこにあるものではなく、それを願う強い意志の上に、成り立っているものなのかも知れない。(会員K)

新システム導入で通報から出動まで約30秒早まった東埼玉消防指令センター

6月27日に東埼玉消防指令センターへ見学に行きました。先月は台風や地震も頻発していたので、不安を感じた方もいるのではないのでしょうか。

このセンターは、越谷消防局・三郷消防本部・吉川松伏消防組合消防本部・春日部消防本部・草加八潮消防局を管轄としています。この管轄の119番通報を集約し、各消防本部への出動指示までを一体的に連携・管理します。また各消防本部の隊員が勤務していることで、より連携がとりやすくなったということです。

そして通報者のニーズにも合わせて、緊急通信システムやFAX対応、通訳対応などの機能も充実していました。

現在3名の女性消防士が勤務しているということで、仮眠室も女性専用のエリアがあり、今後女性の比率が上がった場合にも対応できる造りとなっていた事が興味深かったです。(会員N)



アンケートにご協力ください

どの項目に関心を持ちましたか。○をつけてください。

- ・誰もが安心して働き、学び、暮らせる社会をどうつくるか
- ・清水泉一般質問
- ・大田ひろ一般質問
- ・県議会6月定例会報告
- ・ネットの視点
- ・活動報告

その理由をお聞かせください。

県政・市政についての要望や気になっていることをお書きください。

募集

会員&ボランティア募集

ネットの趣旨に賛同し会員になってくださる方、「生き生きレポート」を配布して下さる方を募集しています。詳しくは下記連絡先へご連絡ください。※会費は年間3,000円です



越谷市民ネットワーク議員



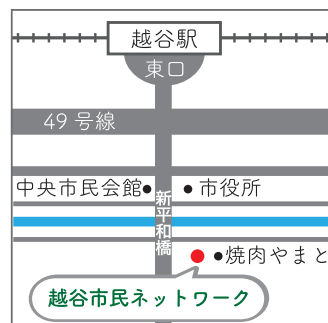
山田 ゆう子
中町在住



清水 泉
袋山在住



大田 ひろ
南越谷在住



市民ネット3つのルール

- ① 任期は最長3期12年で交代
- ② 選挙はカンパとボランティア
- ③ 議員報酬はみんなの活動費

お問い合わせ



越谷市民ネットワーク

〒343-0023 越谷市東越谷1-5-17-1F
TEL/FAX 048-962-8052
E-MAIL koshigaya.net@gmail.com

No.136
2026年7月

生き生きレポート

越谷市民ネットワーク



次世代型デイケア施設AIAI見学

誰もが安心して働き、学び、暮らせる社会をどうつくるか

「日本で暮らす外国人～共に生きる社会とは～」学習会を開催して

「外国人が増えている」「治安が悪くなる」「外国人はルールを守らない」など、外国人をめぐる話題を耳にする機会が増えています。政治の場でも、外国人政策が争点として語られることが多くなりました。だからこそ、イメージや感情だけで判断するのではなく、いま日本で実際に何が起きているのかを知りたい。そんな思いで学習会を企画し、国土舘大学教授で「NPO移住者と連帯する全国ネットワーク」共同代表の鈴木江理子さんをお招きしました。

日本はすでに移民社会である

現在、日本には400万人を超える外国人が暮らしています。(越谷市では10,488人/2026年6月現在)学校では外国にルーツを持つ友人がいることが当たり前になりました。私たちが思っている以上に、日本社会はすでに多様な人々が共に暮らす社会になっています。

「外国人が増えると治安が悪くなる」というイメージについても、統計をもとに丁寧な説明がありました。もちろん犯罪はあってはなりません。しかし、日本全体の治安悪化を外国人だけに結び付けることはできず、それ以上に言葉の壁や教育、就職や住居での差別など、課題が多くあることを学びました。

在住外国人のさまざまな背景

「外国人」といっても、その姿は様々ではありません。外国籍で長く日本に暮らす人もいれば、日本国籍を取得した人、日本国籍であっても外国にルーツを持つ人もいます。また、「適法に在留している外国人」と「非正規滞在者」を単純に分けて考えることの難しさについてお話がありました。非正規滞在に至る経緯はさまざまで一人ひとり事情が異なります。日本の難民認定率は依然として低く、在留資格だけでは見えてこない事情があること、人権の視点から一人ひとりの状況を見ることの大切さについても考えさせられました。



講師の鈴木江理子さん

そして、外国人労働者の置かれている現状について

も印象に残りました。労働基準法では国籍による差別は禁止されていますが、実際には不安定な雇用、低賃金、昇進差別などを経験する人がいます。教育の分野でも、外国籍の子どもは日本の義務教育の対象ではなく、日本語指導の体制や高校入試での支援にも地域差があります。ルビを振る、試験時間を延長する、特別枠を設けるなどの配慮は、子どもの学ぶ権利を保障するために重要です。

「外国人問題」ではなく「私たちはどんな社会を目指すのか」

越谷市民ネットワークでは、これまでも人権やヘイトスピーチの問題に取り組んできましたが、今回改めて感じたのは、外国人をめぐる課題は「外国人問題」ではなく、「私たちがどのような社会を目指すのか」という問いだということです。外国人、難民、技能実習生という「肩書き」で人を見るのではなく、地域で働く労働者であり、子どもを育てる親であり、同じ地域に暮らす住民として向き合うこと。その上で不平等があるならそれを改善していくことが、本当の意味での「共に生きる社会」につながるのだと感じました。

誰もが安心して働き、学び、暮らせる社会は、外国にルーツを持つ人だけでなく、日本で暮らすすべての人にとって暮らしやすい社会です。安定した雇用や教育を受ける権利、必要な情報が届く環境、差別のない地域づくりなど、社会の土台を整えることは地域の未来にもつながります。分断や不安をあおるのではなく、事実を知り、多様な立場の人の声に耳を傾けながら考え続けていきたいと思います。(会員Y)